アクティブラーニングを活用した社会科の実践

－政治や自治活動に対するアクティブな関わりとは－

千葉県立特別支援学校流山高等学園
研究主任　淺利邦子
国立特別支援教育総合研究所
主任研究員　涌井　恵

学校概要

* （学校教育目標）一人一人の障害の状態や能力・特性に応じ、社会自立・職業自立に必要な基礎・基本の定着を図るとともに生きる力を育成し、個性が輝く教育を推進する。

教育課程の特徴

* 高等部専門学科単独の特別支援学校
* 4学科8コース

園芸技術科
農業コース
園芸コース

工業技術科
木工コース
造形コース

生活技術科
縫製コース
手芸コース

福祉・流通サービス科
福祉コース
流通コース

職業科目

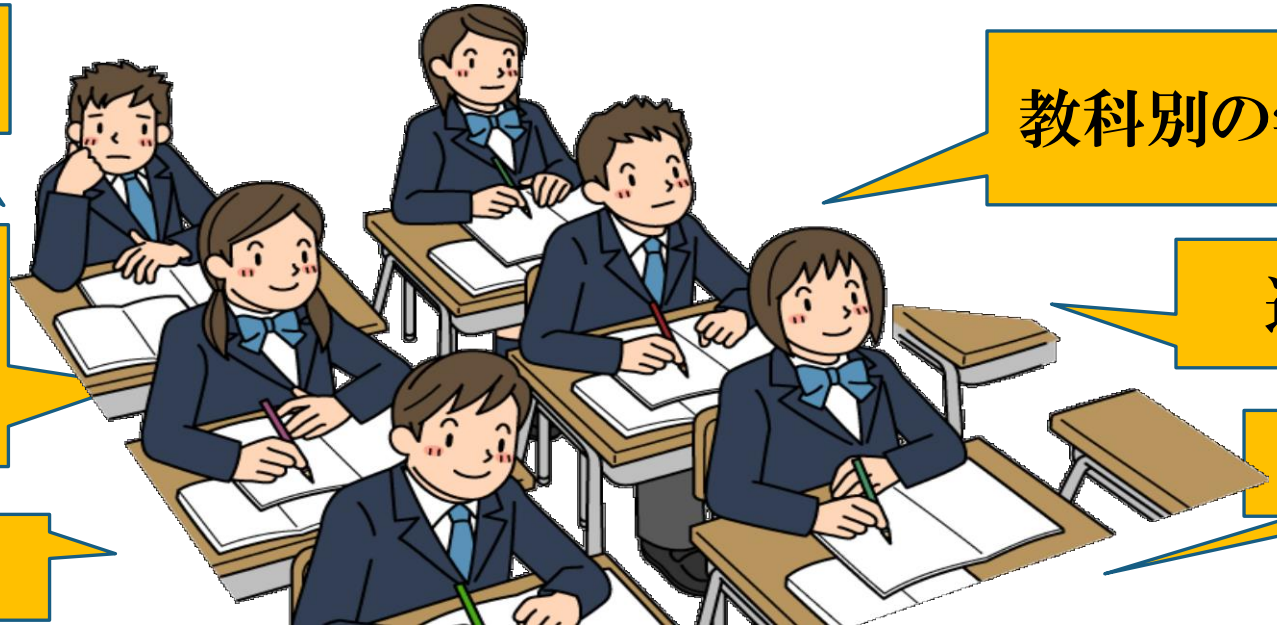
教科別の学習

総合的な学習の時間

道徳

自立活動

学活



日課表

	月	火	水	木	金
1	専門	専門	専門	学校設定教科「キャリア・チャレンジ」	自立活動
2					ST学習
3					家庭
4					
5	数学	社 英	理科		HR
6	保体	美術	情報		保体
7	道徳	国語	音楽		委員会部活動

生徒に育てたい力
学校教育目標より

社会自立・職業自立に
必要な基礎基本の定着

生きる力の育成

実施学級の概要

* 生徒数　8名　知的障害のある高等部3年生
* 生徒の実態：全体として真面目な性格の生徒が多い学級

単元について
「学校内の課題を見つけ、陳情書をまとめよう」

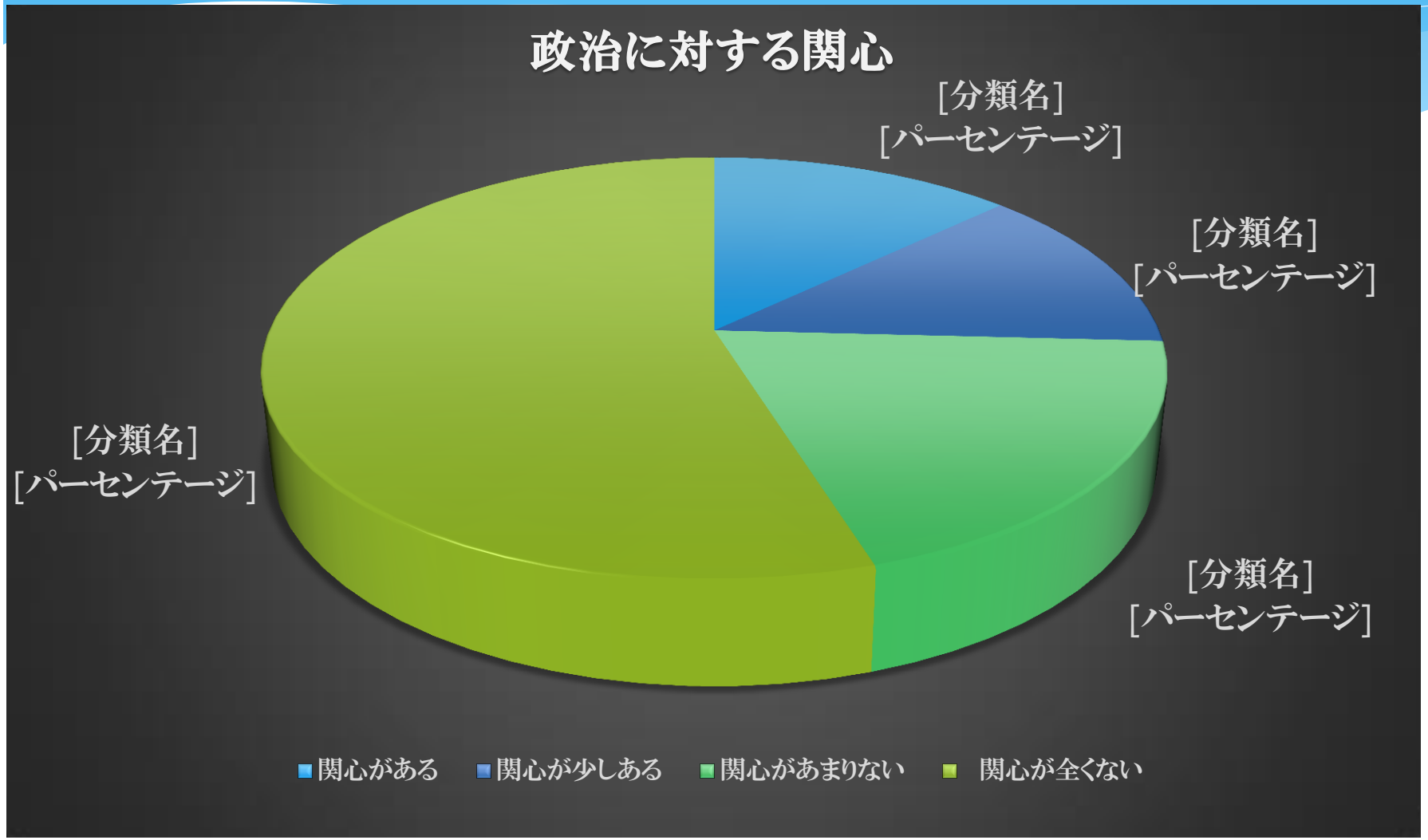
* 特別支援学校高等部学習指導要領
* 「社会」
* 目標　社会の様子、働き方や移り変わりについての関心と理解を一層深め、社会生活に必要な能力と態度を育てる

* 内容　2段階(2)
* 社会の慣習、生活に関係の深い法や制度を知り、必要に応じて生活に生かす。

流山高等学園3年生の選挙や政治に対する感想

* 親が選挙に行かないので自分も行く必要を感じない。
* 選挙をした結果何が変わるのかがわからない。

政治に対する関心についてのアンケートから



単元目標

* ・社会の課題やルールに対して目を向け、自ら参加し、より良いものを考えていこうという意識をもてるようにするため、まずは身近な学校内の事柄について考える。

* ・課題解決やルール作りに参画し、政治や自治活動に対して関心を持つ一歩とする。

* ・意見交換する中で一つの事柄に対しても様々な見方や考え方があることを知る。

社会自立・職業自立に必要な基礎基本の定着

生きる力の育成

単元構成

一次 （１時間）	①校内を散策し、身近な課題について考える。 ②政治への関わり方として請願や署名活動があることを知る。
二次 （１時間）	①学校内の課題について自分なりに考えたことを、グループで伝えることができる。 ②グループ内で出た意見を協力しながら一つにまとめようとする。 ③身近な課題を陳情書にまとめるまでの手順を知る。

＊ 全ての授業で10～15分の
アクティブラーニング

グループでニュースレポートを発表

二人組で課題について考える

授業目標

・学校内の課題について自分なりに考えたことを、グループ内で発表することができる。

・グループ内で出た意見を、協力しながら一つにまとめようとする。

・身近な課題を陳情書にまとめるまでの手順がわかる。

授業内容

学校の中の課題を探す

↓

グループで話合い、陳情するテーマを絞る

↓

陳情書を書く

・問題発見・解決を念頭に置いた深い学び

・対話的な学び

・主体的な学び

学校の中の課題を探す

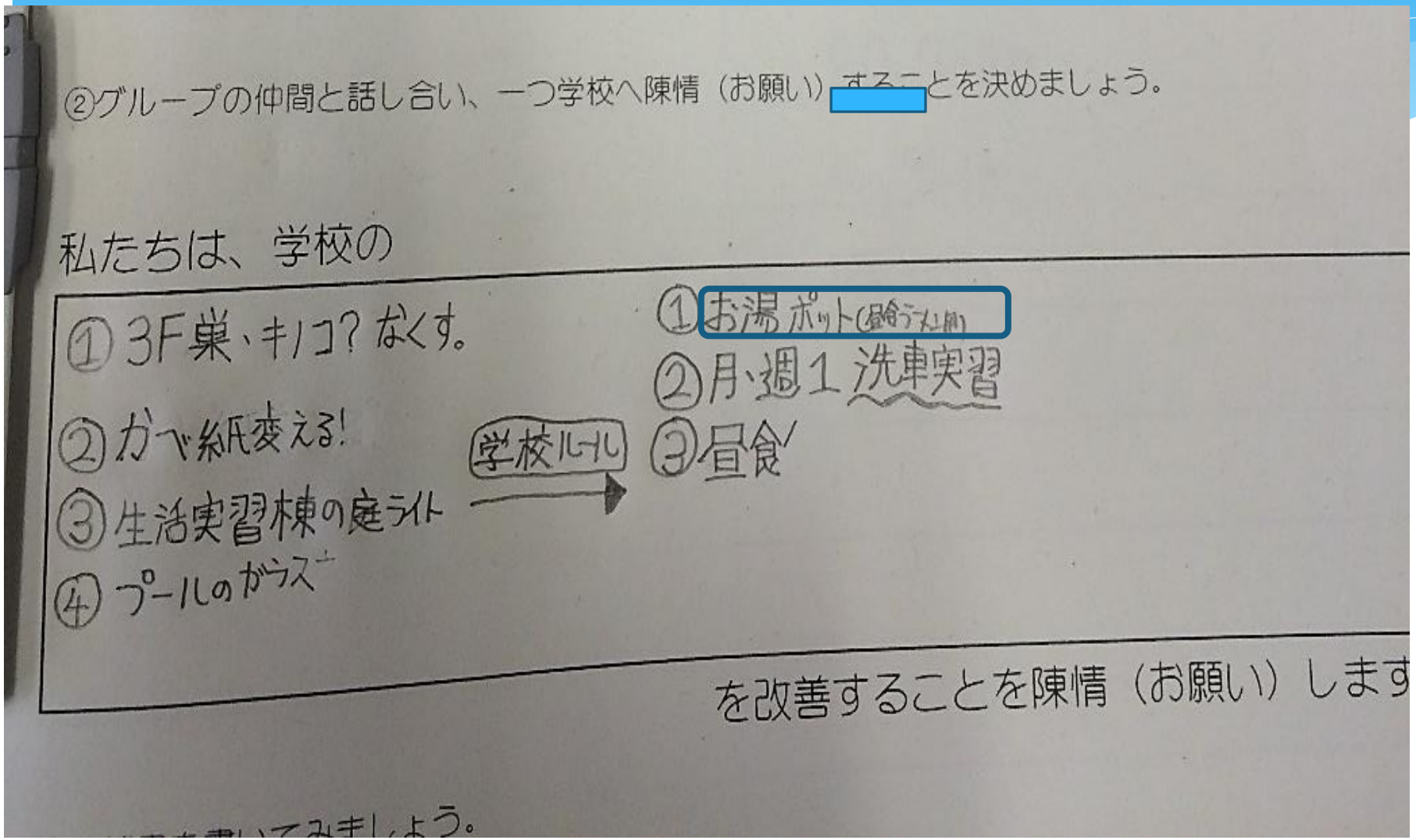
グループでの話し合い

話し合いのポイント①
キーパーソンの配置

話し合いのポイント②
学級の状況に応じてグループの人数を変える。

話し合いのポイント③
話し合いのルールの設定

学校の課題について



②グループの仲間と話し合い、一つ学校へ陳情（お願い）することを決めましょう。

私たちは、学校の

①3F巣、キノコ？なくす。
②かべ紙変える！
③生活実習棟の庭ライト
④プールのガラス

学校ルール →

①お湯ポット（給ラーメン用）
②月、週1洗車実習
③昼食

を改善することを陳情（お願い）します

学習評価

振り返りシート

評価の観点

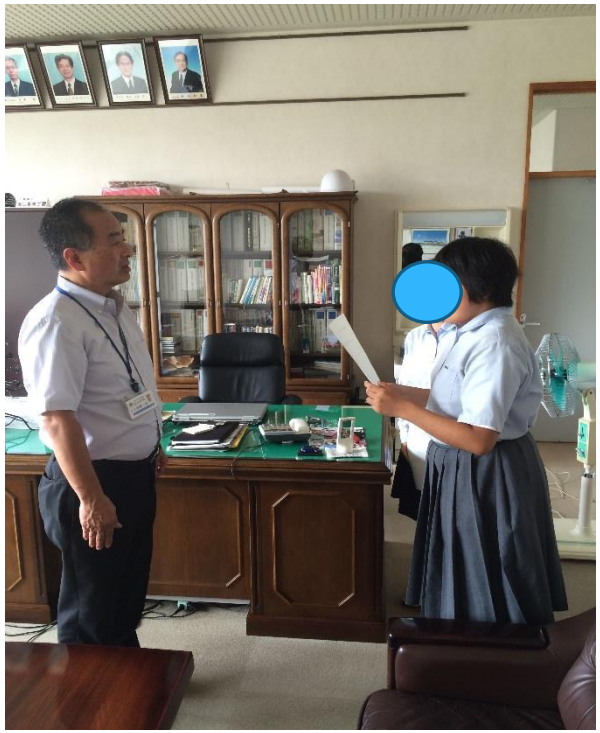
学校内の課題について自分なりに考えたことを、グループ内で発表することができたか。
評価項目
◎課題について複数の回答を発表できた。
〇課題について１回回答することができた。
△発表することが難しかった。

グループ内で出た意見を、協力しながら一つにまとめようとしたか
評価項目
◎グループ内で出た意見を取捨選択して１つにまとめることができた。
〇良いと思う意見について意見を述べることができた。
△意見をいうことや協力することが難しかった。

- **身近な課題を陳情書にまとめるまでの手順を知ることができたか**
- **評価項目**
- **◎陳情書にまとめる手順を簡単に説明できる程度に知ることができた。**
- **〇陳情書をまとめる手順が少しわかった。**
- **△陳情書についてよくわからない。**

生徒の様子

陳情書を渡しました



結果

* 意見を一つにまとめることへの手立てが必要

授業の中でのルール作り

話し合いを行うためのベース作りはHRや自立活動、専門教科など、普通教科以外でも行う

生徒ができたこと、課題となったこと

○人との対話の仕方や協働学習のベース作りが必要

意見をまとめるための手立て

「誰の意見か」で判断しない

社会科として課題になったこと

* 教科として何を生徒に学んでほしいかはっきりさせる

例えば、陳情書の場合、誰が誰に何のために渡すかが大切

* 生徒が学び続けようと思うような手立てを考える

陳情書の仕組みを知って生徒会の目安箱を活用してみる

以上で流山高等学園からの報告を終わります